

太田川の治水 ～洪水対策～

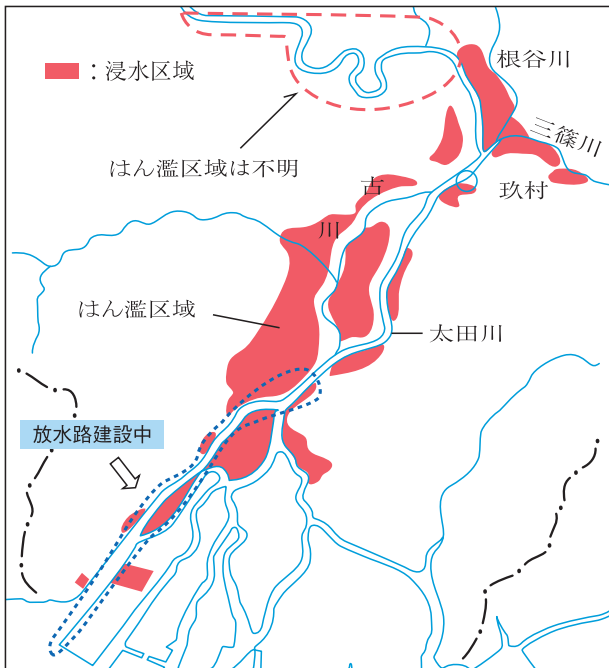
太田川放水路事業は、太平洋戦争の激化により工事を中断した時期がありましたが、昭和26年から本格的に工事が再開され、昭和39年に大芝水門、昭和40年に祇園水門のそれぞれが完成し、昭和42年に太田川放水路が竣工しました。また、昭和40年度より本川中流部及び支川三篠川・根谷川の重点竣工を行ったほか、昭和44年に古川が締め切られ、昭和50年には高瀬堰が固定堰から可動堰へと変わりました。

さらに、昭和52年から温井ダム建設に着手し、平成14年に完成するなど、治水対策を推進してきました。

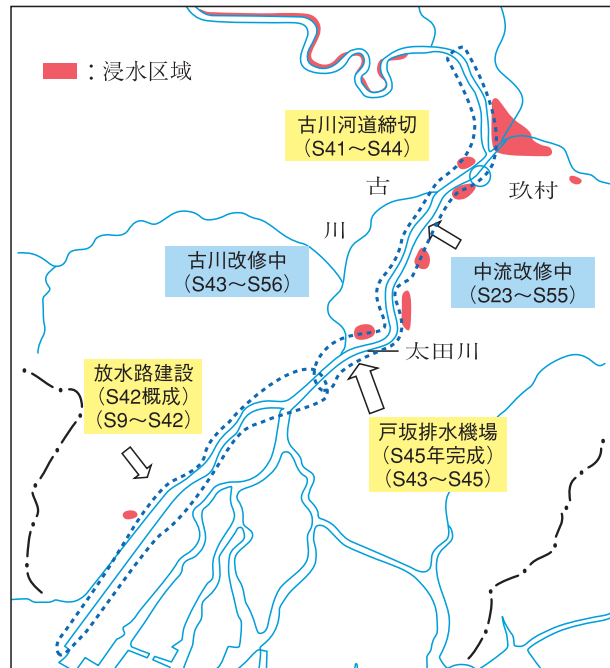
治水事業の効果

太田川史上最大規模の洪水となった昭和18年9月洪水、昭和47年7月洪水、平成17年9月洪水時の浸水区域を比較すると、太田川放水路（昭和42年完成）、高瀬堰（昭和50年完成）、温井ダム（平成14年完成）などの治水事業の効果により、太田川下流部・下流デルタ域で大きく被害が軽減されています。

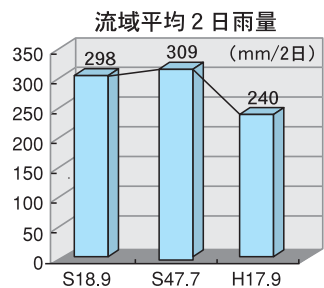
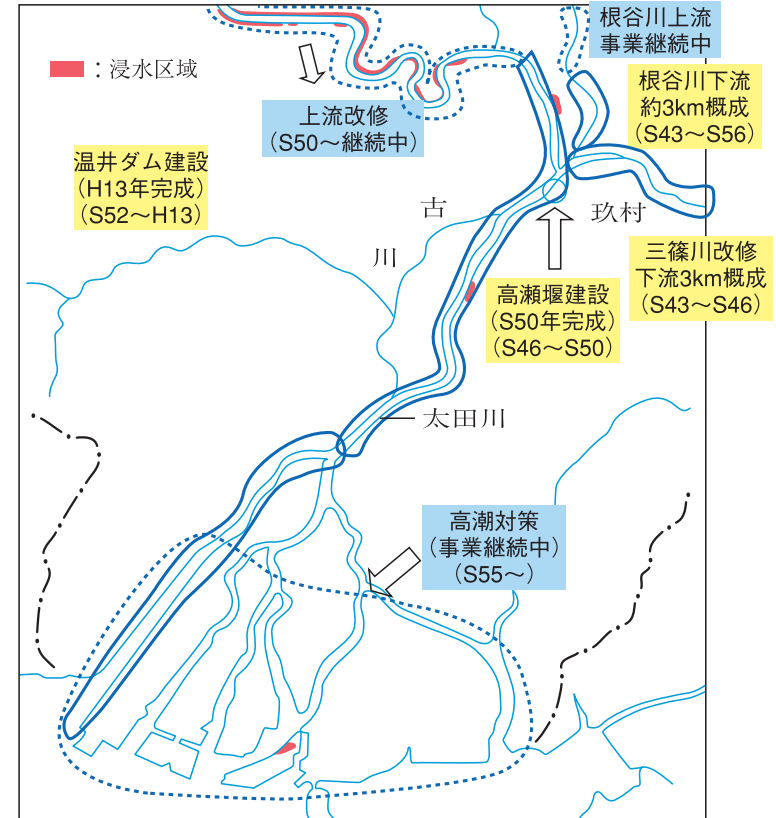
昭和18年9月洪水
〈放水路通水開始前〉



昭和47年7月洪水
〈放水路完成後〉



平成17年9月洪水
〈温井ダム・高瀬堰等の完成後〉



被害状況	昭和18年 9月洪水	昭和47年 7月洪水	平成17年 9月洪水
浸水面積 (ha)	32,538	200	130
被害家屋数 (戸)	17,632	1,000	486